

パキスタン女性が変化の車輪を回す

シャバーナ・マーフーズ (パキスタン)

パキスタン中央部にある第 2 の都市ラホールでは、まだそう頻繁ではありませんが、街角で女性のオートバイライダーを見かけることが徐々に普通の光景となりつつあります。先進国はもちろん、近隣諸国の人々にとっても、この光景は珍しくないことだと思いますが、伝統に縛られたパキスタンでは、これは大きな成果へ近づいている兆しです。

パキスタンの女性の識字率は 2% 上がり 52% 近くになっていますが、この識字率の上昇に伴い、女性の意識と不平等に対抗する意思が高まっています。このことはとても重要だと思います。なぜなら多くの不平等があるからです。ジェンダーに基づく暴力に反対する世界的な 16 日間の「UNiTE 女性に対する暴力撤廃キャンペーン」の議論やイベントでも明らかであったように、女性に対する虐待や暴力は依然として大きな問題です。パキスタンの女性は、家庭内の問題をめぐって家族から虐待や拷問を受けることがあり、殺されるケースさえ今も起こっています。街角や職場、ネット上でのハラスメントも蔓延しています。伝統に従い、女性の教育、結婚、仕事などに関する多くのことが、家族内の他の誰かによって決められています。何世紀にもわたる古い文化の影響で家父長制度が当たり前となり、それが固定的ジェンダーの役割概念をより強くしているのです。人口が急成長し人があふれている都市では、十分な交通手段が発達しておらず、安全も確保されていないため、公共交通機関で単独移動しようとする女性にとって、交通手段の確保が大きなハードルになっています。

パキスタンの主要都市の中でも、特にカラチ、ラホール、クエッタ、ペシャワールなどでは、公営の公共交通手段は驚くほど少ない状況です。ラホールでは長年にわたって高速道路、高架道路、地下道などのネットワークが複雑に発達してきましたが、その一方、公共交通手段はわずかなバスと非常に本数の少ない都市間鉄道ネットワークだけしかありません。この大きな落差を、リキシャ (パキスタンの三輪自動車)、タクシー、そして現在一般的に使われるようになったライドヘイリング・サービス (アプリ等を使った配車サービス) といった民間部門が埋めており、自家用車を所有している人の割合もかなり高くなっています。

働く女性や女学生には、単独移動が悪夢のような体験になることもあります。混雑したバスの乗車口を通り抜ける際には、見知らぬ男性がわざとぶつかってきたり、意味ありげに軽くなでてきたりすることが多々あります。セクハラ的な野次も珍しくありません。また、人けのない道を歩くと、見知らぬ人にいたずらに付きまとわれたりするリスクも高く、

さらに悪い場合は性的ハラスメントを受けることもあります。そうでなくても、タクシー運転手が若い女性の利用客に対して法外な値を吹っかけるということもよく知られています。

こんな状況では、パキスタン女性は家族を頼るか、安全が保障された交通機関を利用するか、それがなければ自分の車を運転するしかありません。その中で、オートバイは低コストでスペースもとらないため比較的容易な選択肢なのですが、ここでもまた「伝統」が立ちはだかるのです。

約 80 年前の独立以来、パキスタン女性は自動車の運転が許可されています。これは、アフガニスタンやその他のイスラム教徒が過半数を占める国とは異なっており、サウジアラビアも最近までそのような状況でした（パキスタンは人口の 95%以上がイスラム教徒であり、公式にはイスラム共和国です）。車は女性にとって安全な「カバー」の役割を果たし、詮索好きな人の目や手から女性を守っています。一方、オートバイは多くの場合、女性が運転するのは不適切、恥ずべき行為、または危険であると考えられています。オートバイは女学生でも簡単に運転を学べ、通学や通勤に便利に利用できますが、その多くが、路上で人目にさらされる、ハラスメントや事故に遭いやすいと今でも感じています。

このような誤解や懸念を拭い去ることが、「運転する女性たち (Women on Wheels)」運動を始めた民間組織スーフィー財団の目的でした。2019 年も終わりに近づいた現在、この財団は国内最大の都市であるカラチでこの運動を始め、女性がより移動しやすくなるように補助金付きのオートバイの提供を開始しました。また、女性ドライバーへの交通安全教育と訓練の実施、および女性ドライバー間のネットワークづくりなども目指しています。

このプロジェクトで、すでにパンジャブ州の 3,500 人の女性がオートバイの運転訓練を受け、オートバイが 40 パーセントの値引き価格で提供されました。さらに 1 万人の女性に運転訓練を実施することを目指しています。このプロジェクトは、女性のエンパワーメントのための素晴らしい活動として歓迎されており、言うまでもなく、女性から圧倒的な支持を得ています。



Copyright: propakistani.pk

パキスタンでは女性が人口の 49%を占めていますが、その多くが日々の活動において男性を頼っています。一人で移動できる能力と利便性、そして何よりもそこにある自由を得ることは、単なる交通機関の問題の解決にはとどまりません。これは、教育やキャリアなど、これまで閉ざされていた他の多くの選択肢への扉を開くものです。移動の安全性や交通手段の確保が唯一のハードルであった場合、またはそれが熱意のある女性の学歴やキャリアの向上の妨げとなっていた場合など、その障害が取り除かれることで、パキスタンの若い女性が得られるチャンスは今後いっきに増えるでしょう。 車輪は回り始めたのです。



Copyright: dailytimes.com.pk